

令和6年度三重県地球温暖化対策総合計画推進委員会における委員からの意見

- 1 会議名 令和6年度三重県地球温暖化対策総合計画推進委員会
- 2 開催日時 令和6年9月4日（水）13時00分から16時00分
- 3 開催場所 JA三重健保会館 4階中研修室
- 4 出席委員 別添のとおり
- 5 委員からの主な意見及び対応状況
 - ①実施中：すでに取り組んでいるもの（4件）
 - ②参考にする：今後の取組の参考とさせていただくもの（7件）
 - ③参考にすることが難しい：県の考え方と異なるもの、または施策として取組むことが難しいもの（0件）

(1) 三重県域における温室効果ガスの削減

番号	意見		対応区分
1	県民や企業の取組の見える化	・各家庭での太陽光発電等の導入や各企業の取組による温室効果ガス排出量削減の効果を図示化するなど、県民や企業の努力が見える化できるよう工夫をお願いします。	②
2	住宅メーカー等と連携した取組の必要性	・住宅の脱炭素化（断熱リフォーム）の推進について、住宅メーカー等と連携した取組が必要ではないか。	①
3	家庭部門における取組	・みえデコ活のように身近なところで取り組みやすい事業については、引き続き進められたい。	①
4		・現状の削減状況を見ると、地球温暖化対策は待ったなしであることをもっと発信するべきである。	②
5	県民への情報発信	・短期間での評価だけでなく、長期的に見て、大きなイノベーションが起きたときに、どのように対応していくか含めて、県民に対して情報を発信していくことが必要である。	②

(2) 気候変動への適応

番号	意見		対応区分
1	適応の取組	・適応策が網羅的に記載されており、適応の効果も見えるため、大変良いと思うが、県として戦略的・重点的に行っている適応策が分かるとより良い。今後期待している。	②
2	県民への情報発信	・三重県でも今年初めて最高気温が40度を超え、今までは地球温暖化に関心がなかった方が、危	②

		機感を持ったと思う。これをきっかけと捉えて、県民にしっかりと伝えていくことが重要である。	
--	--	--	--

(3) 三重県庁の取組

番号		意見	対応区分
1	評価項目の拡充	・評価のため、電力使用量の増減も記載してほしい。	②
2	建築物の断熱化	・住宅で、一番熱が逃げるのは窓であり、窓の断熱化は住宅全体に寄与が大きい。複層化だけではなく、遮光シート等、予算を大きくかけずに、窓の断熱性能を上げる方法はあるため、検討されたい。	①
3	テレワークやオンライン会議等の活用	・働き方改革、通勤のCO ₂ 削減につながるテレワークやオンライン会議等について、活用を推進しているか。	①
4	再エネ電力の調達	・国立環境研究所では、電力の調達を再生可能エネルギー由来の電力に変えており、効果が非常に大きいので、環境生活部が先んじて、再生可能エネルギー由来の電力を調達し、他部局への水平展開を求めるのはどうか。	②

(別添)

令和6年度三重県地球温暖化対策総合計画推進委員会 出席委員

氏名	所属・役職
あかほり たけひろ 赤堀 剛寛	四日市市 環境部 環境政策課長
いとう なおこ 伊藤 直子	三重県経営者協会 女性懇話会 (伊藤印刷株式会社 取締役)
かみた けんじ 上田 健二	国立研究開発法人国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長
さか なおき 坂 直樹	中部経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長
さかのうえ ゆうこ 坂上 優子	公益社団法人三重県緑化推進協会
すぎもと てつや 杉本 哲也	(四日市地域環境対策協議会 大気部会長会社) 三菱ガス化学株式会社 四日市工場 環境保安室 課長
たちばな よしひろ 立花 義裕	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授
たもり せいこ 多森 成子	三重テレビ放送 気象キャスター・気象予報士
てらだ たくじ 寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
にいばら しゅういちろう 新原 修一郎	中部地方環境事務所 地域脱炭素創生室長
ばく けいしゆく 朴 恵淑	三重県地球温暖化防止活動推進センター長 三重大学客員教授
もりた とよひと 森田 豊人	志摩市 市民生活部 環境・ごみ対策課長
わたなべ やすひと 渡邊 康人	株式会社百五銀行 経営企画部 広報SDGs推進室 室長